

6 ノート

板書を写すだけのノートになっています。何を指導したらよいのでしょうか？



若手教員

ノートは、児童生徒自身の「学びの足跡」が残るように

ノートは、板書を写したり調べたことを記録したりするだけではなく、多くの役割があります。目的に応じた書き方を指導する必要があります。

ノートの役割

児童生徒にとって

- 計算や漢字などを練習することで定着に役立つ。
- 調べたこと、分かったこと、感じたことなどを記録することで考えが整理され、説明にも役立つ。
- 考えを深めることに役立つ。
- 学習を振り返り、学習内容を確認することに役立つ。

教師にとって

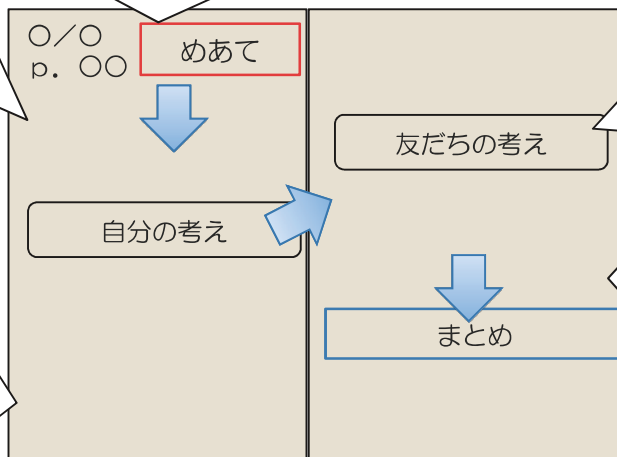
- 学習状況を把握し、児童生徒に合った学習や次時以降の指導に生かしたり、評価の材料として使ったりすることができる。
- 児童生徒との良好な人間関係を築くことに役立つ。

学び方を定着させるノート指導を

日付、教科書のページ、問題番号など位置を決めて書く。

自力解決の足跡を残す。
答えだけではなく、解決方法を整理して書く。間違いは消さずに、二重線などで訂正。（文字の間違いなどは除く。）

マス目を使うことや余白の部分を作ることで、見やすくなるだけでなく、付け足しを書くこともできる。



自分には、思いつかなかった**友達**の考えを取り入れることで、思考が広がる。色を変えるなどの工夫で区別しやすくなる。記入する時間を取ることも大切。

書くことに時間がかかる場合には、書き始めをそろえたり、作業量を調整したりする。
また、早く書き終えた場合には、別の解決法、発表準備、板書等をするように声かけをする。

学年に応じたノート指導の例

小学校低学年

- 書く時間を十分に確保。
- 時間内に正確に書く。
- 書くところと書かないところを指示。

小学校中学年

- 正確に早く書く。
- 根拠を基に自分の考えを書く。
- 考えたこと、不思議に思ったこと、分からなかったことなどをメモするように指示。

小学校高学年

- 矢印や囲み、アンダーライン、絵やイメージ図など自分なりに学習内容を整理していく方法を指導。
- 自分で作ったオリジナルの参考書として。

中学校

- 板書以外に気付いたことや大事だと思うことをメモするように指導。

ノートで学ぶ意欲を高める

ノートを点検し、丸やはんこの種類で評価を伝えることだけではなく、称揚や励ましの言葉を書き添えることで児童生徒の意欲が高まります。

- (例)
- ・変容や成長を具体的にほめる。
 - ・他の見方や考え方のヒントを書き添える。

メンターは、

見本となるノートのコピーを廊下や掲示板に掲示することで、児童生徒はもちろん、校内でも共有できます。

また、点検のときには基準を設けて評価すること、学期末の評価のために記録していくことも伝えましょう。



メンター 9

7 板書

児童の発言や考えの羅列になり、分かりにくい板書になってしまいます。



若手教員

1 単位時間の「学びの足跡」を振り返ることができる板書に

板書は、児童生徒とともに学んだ内容を視覚的に整理して児童生徒の理解や思考を助けるためのものです。

板書の基本

- 正確で丁寧な文字 → 漢字や記号の正しい書き方や筆順指導にもなる。
- 学年に応じた文字の大きさ → 板書や掲示物は、前列でも後列でも見える場所に。
- いつも全員によく見える高さ → 色の区別ができにくい児童生徒がいることにも配慮しつつ、授業を振り返る時の手助けになる色分けにする。
- 学習内容に応じたチョークの色 (例) 白…通常 黄…重要語句 赤・青…下線や枠、矢印等
- 日付け、教科書のページを書く → p. 4～p. 5 参照
- 「めあて」と「まとめ」を書く → 教材研究の一つとして書く内容とタイミングを計画。
- 板書の計画を立てる

構造的な板書をめざして

授業中の児童生徒が理解を深め、思考でき、そして、まとめで授業を振り返る時に学んだことや考えたことが確かめやすいように構造的(比較・分類・関連付け・多面的に追究する等)に整理します。

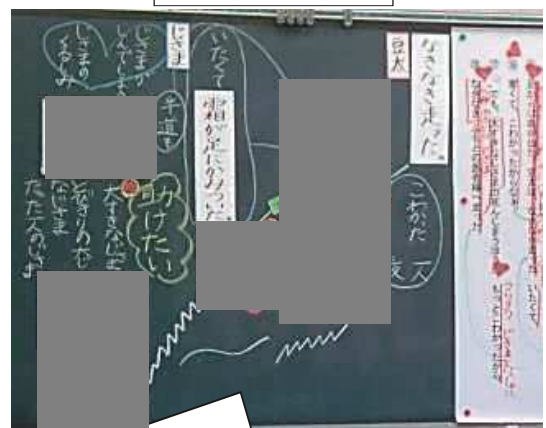
対比的な板書



例 小学校国語「ももちの木」

昼と夜の言動を比較しやすいように、黒板を上下に分ける。

関連付ける板書



行動と情景を関連付けやすいように、思いをハートの大きさに、坂や霜を線で表現。

板書のポイント

- 思考の視覚化、共有化、焦点化を通してユニバーサルデザインの授業づくりを
 - ・ 絵や写真、グラフなどの資料を用いて視覚化し、共通に考える材料を示す。
 - ・ 教師や児童生徒が書いた短冊カードやミニボードなどを貼ることで、お互いの考えを共有したり比較・分類したりする。
 - ・ 児童生徒の考えを文ではなく、必要な言葉(キーワード)で。
 - ・ 矢印を活用する。
 - ・ 大型テレビ、プロジェクタ、教材提示装置等のICT機器の活用。
- 板書とノートやワークシートと対応を
 - ・ 個人思考から集団思考へ流れがスムーズになる。

メンターは、

板書時の教師の体の向きや姿勢を助言したり、他クラスの同じ授業場面を写真で記録したりしておきましょう。



メンター

※カラーUDも意識して！
色の見え方が異なる児童生徒にも情報が正確に伝わるよう、色使いに配慮が必要です。

3

公開授業に向けて

1 単元計画を作るとき

学習指導案は何のために作成するのでしょうか？



若手教員

学習指導案は授業の設計図であり企画書でもある

学習指導案とは、①授業者の教材研究の結果をまとめた授業の設計図
②参観者に指導者のねらいや指導の手立てを伝えるための企画書の2つの側面があります。

学習指導案の一般的な様式

(学校によって形式や項目・順番などは異なります。)

第○学年 ○組 ○ ○科 学習指導案
平成○年○月○日 第○校時 ○○教室 指導者 ○ ○ ○ ○

1 単元名(主題・題材) ○○○○○○○○

2 単元の目標

- (1) (知識・技能)
- (2) (思考・判断・表現)
- (3) (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

4 指導と評価の計画

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点			評価規準及び評価方法
			知	考	主	
一	1	(本時)	○			・評価規準(評価方法)
	2					
二	1			○		

5 指導上の立場

- (1) 教材(題材)観
- (2) 児童・生徒観
- (3) 指導観
- (4) 研究主題との関連

6 本時案(第○次 第○時)

目標	○	
学習活動	教師の支援・留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてをつかむ。	○ ~することで、.....できるようにする。 ○ ~して、前時の学習を想起させることで、めあてにつながるようにする。 本時のめあてを記述する。	※ 評価規準を具体的に記述する。
2 △△△について自分の考えをもつ。	○ ○ □□□ができにくい児童生徒には、~することで.....することができるようにする。	
3 △△△について話し合う。	○	
4 本時のまとめをする。(まとめ・振り返り)	本時のめあてに対するまとめを書く。 ○.....	

※移行措置期間の目標は新学習指導要領に準拠した目標です。評価規準の項目は、現行のままです。

メンターは、

目指す児童生徒像や校内研究の目的に沿った提案ができるように、意図を尋ねながら原案へのアドバイスをし、ともに練り上げていきましょう。



メンター

学習指導案(単元)の考え方

学習指導案は教材研究（p. 3参照）したことを文章化したものです。研究授業のために作成するものではなく、授業のねらいと筋道を教師自身が明確にするためのものです。

学習指導案を考える順番（例）

Q1 その単元を通して、児童生徒にどのような力を付けることを「学習指導要領」は求めていますか。

○学習指導要領（解説）で各教科・領域の目標と内容を確認。

Q2 その単元は、既習事項とどのようにつながっていますか。

○学習指導要領（解説）で各教科・領域の同学年・他学年の既習事項や今後とのつながりを確認。
○学習指導要領（解説）で他教科・他領域とのつながりを確認。

Q3 その単元について受け持ちの児童生徒の実態はどうでしょうか。

○その単元でのレディネスや学習方法の経験などについて確認。
※レディネス…物事の習得・学習を行なうための一定の知識や経験、興味や心身の準備

Q4 その単元で、工夫する点や手立ての中心は何ですか。

○教材観（題材観）と児童生徒観に即した指導法を考える。
※研究主題との関連を取り上げる場合、各校や研究会等の研究主題や今までの実践の確認。

Q5 その単元をその時間数費やすことが妥当ですか。

○教材観（題材観）と児童生徒観に即した時間数を考える。
○年間指導計画や教科書等も参考に。

学習指導案に書く内容（例）

1 単元名（主題・題材）

2 単元の目標

○
○
○

○教科の3観点を書く。
○観点数は教科によって違う。
○「～ができる。」「～しようとする。」「～しようとする。」等、児童生徒の立場で書く。

5 指導上の立場

(1) 教材観
(題材観)

○教材の内容、既習事項との関係、今後の展開等。
○単元を学習する意義や必要性、日常生活や他教科との関係、題材と児童生徒の関係等。
○指導者の立場で書く。

5 指導上の立場

(2) 児童・生徒観

○関連する事項の定着度、単元への関心・意欲・態度、単元に関する知識・技能等。
○児童生徒や学級の実態、日常の取組、配慮事項等。
○指導者の立場で書く。

5 指導上の立場

(3) 指導観

○工夫する点や手立て指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項等
○指導者の立場で書く。

(4) 研究主題との関連

4 指導と評価の計画

○指導の順序、配当時間を示す。
○評価計画も合わせて記す場合もある。
○本時の位置付けも示す。

2 本時案

本時案は、どんな順に考えればよいのでしょうか？



単元の中の位置付けを明確に

学習指導案(本時)の考え方

本時案を考える順番(例)

Q1 本時の目標を具体化(深い学びを実現)した児童生徒はどのような姿ですか。

○本時で児童生徒に付けたい力を本時の目標に設定する。

Q2 本時のまとめでは、何をどこまで振り返りますか。

○期待する児童生徒の姿で「まとめ」を考える。
※詳しくはp. 5参照

Q3 本時のめあては、児童生徒に活動が分かる言葉(行動目標)として設定できていますか。

○「まとめ」に対応した「めあて」を考える。
※詳しくはp. 4参照

Q4 本時のめあてのめあてに、工夫がありますか。
(主体的な学びの実現に向けて)

Q5 どのようにして振り返りますか。
(主体的な学びの実現に向けて)

Q6 どのような目的で話し合いやグループ活動を行いますか。
(対話的な学びの実現に向けて)

○指導の工夫や手立てを考える。
○授業進行の逆から児童生徒の意識や思考の流れを組み立てる。

○本時の評価規準と方法を設定する。
○本時の目標と単元の評価規準と対応させる。

本時案に書く内容(例)

目標

- 「～することで、……～することができるようにする。」等、本時の学習活動を通して、児童生徒に達成させようとしているねらいを具体的に書く。
- 評価を見越して、できるだけ行動目標で書く。
- 単元の3観点のうち、本時の学習活動を通して、目標とするものについて精選化・重点化を図り、1～2観点到に絞る。

学習活動 本時のまとめをする。

- 児童生徒の言葉で書く。
- 本時の目標につながっている。

学習活動 本時のめあてをつかむ。

- 児童生徒の言葉で書く。

教師の支援、指導上の留意点など

- 指導者の立場で書く。
- 「～することで、～できるようにする。」等、主体的に学習を進めるための手立てをねらいとともに書く。
- 予想されるつまずきがあったり、ねらいを達成していきなりする児童生徒等、個への支援について書く。
- 発言・作品等の例など、児童生徒の姿が想定できるものを示してもよい。
- 教室の配置図(場の工夫として)、板書例など指導の工夫がイメージできるものを書いてよい。

評価規準・評価方法

- 児童生徒の立場で書く。
- 評価規準を具体的に書く。
- 評価の方法を具体的(観察・ノート等)に書く。

メンターは、

学習指導案の「単元の目標」と本時の「目標」、「指導上の立場」と本時の手立ての一貫性や、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手立て等について問いかけを確認することで、若手教員の考えを明確にしておきましょう。



メンター

3 模擬授業

模擬授業は何のためにするのでしょうか？

※模擬授業とは…実際に児童生徒に対して授業をする前に、練習として授業をしてみることに



学習指導案をもとに実際の授業イメージをはっきりさせる

公開授業が近づいてくると、本時で行う発問や教師の動きなど本時案をより具体的に考え、理想の授業を構想します。多くの校内の教員に参加してもらい、意見をいただき、よりよい授業にしていきたいと思います。

模擬授業までにしておくこと

- 学習指導案の作成
- 教材の作成
- 板書計画の作成
- 細案の作成
 - ・教師の発問、助言、動き
 - ・想定される児童生徒の反応
- 日時の連絡

※計画的に取り組むことが大切です。(p.15参照)

メンターは、

模擬授業を行う際には、メンターが多くの教員に声をかけることで、より多くの視点からのアドバイスがもらえたり、お互いの授業力の向上にもつながったりします。



メンター

模擬授業の時には

- どこを中心に見てもらいたいのか、指導者の視点を伝える。
- 授業を全てしなくてもよい。
 - ・重点的に取り組むことで、時間短縮にもなる。(例)導入のみ、授業の中心となる部分、まとめのみ等
- 児童生徒役の教員から意見をもらいながら。
 - ・授業者の動きや発問等で意見がある時には言うことで、他の教員からの意見も聞くことができる。

メンターは、

校内の提案授業としてのねらいと個人の指導力についての課題を区別して伝えましょう。また、研究協議会のときにもこの視点を区別して臨みましょう。



メンター

模擬授業の後には

- 学習指導案や細案等の修正
 - ・様々な意見を参考にしながら、再度本時のねらいに立ち返って修正。
- 体調管理
 - ・理想の授業を計画し、体調もベストな状態で臨めるように。



【ビデオ記録のポイント】

※『「授業これだけは！」授業映像資料 おかやまの教室』をご参照ください。

- 1台の場合
 - ・教室後方の棚やロッカーの上（できるだけ高い場所）に三脚に乗せたビデオで撮影する。
 - ・教室中央からやや外に面した窓側に設置（逆光を防ぐ）
 - ・画面上縁と黒板が重なるようにする。

- 2台以上の場合
 - 2台目は教室前方廊下側、
 - 3台目はグループ活動用の手持ちにする。

- ・2～3分前から記録スタート。
- ・基本的に固定カメラでズームやパンをしない。
- ・ペア・グループを撮影をするときは、一定の時間を特定の児童生徒かグループを撮影する。



4 公開授業

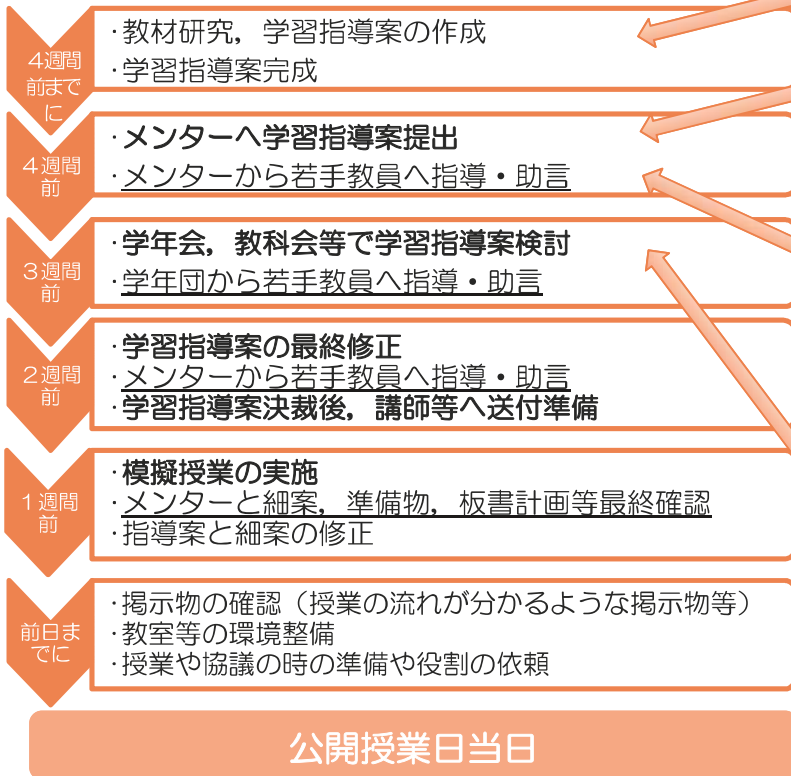
公開授業の直前になって、あわてることがあります。



計画的な準備を心がけよう

公開授業までには、学習指導案作成はもちろんですが、メンターや学年団との打合せや教室等の環境整備、そして授業後の協議の準備や役割分担等、多くの準備が必要です。「ゆとり」をもって取り組めるようにしましょう。

公開授業までのスケジュール(例)



(本冊～メンター方式を核にして～ p.14参照)

メンターは、

公開授業から逆算して教材研究・学習指導案作成の大まかな計画を提示し、少しずつ早めに準備ができるように支援をしましょう。



メンターは、

学習指導案検討のときには、すぐに答えを伝えるのではなく、若手教員の考えを聞いたり、自分で考えるヒントや資料を提供したりしましょう。若手教員の主体性を育てることが大切です。



メンターは、

学年団や研究主任等と公開授業や協議等の連絡調整を進めたり、教室環境や掲示物の整備のアドバイスをしたりすることで、若手教員にとって視野を広げることにつながります。



公開授業後

- 授業後にノートやワークシートを集めて目を通し、ねらいに即したコメントを記録する。
- 本時の目標が達成できていたか、手立ては有効であったか等、児童生徒の姿を思い浮かべながら振り返る。
- 参観された教職員の方からいただいた意見や感想、助言はしっかりとメモをとる。
- 自分の振り返りといただいた意見、授業記録(TCCTC...)等を分析、整理して、学習指導案を具体化できたか比べたり、次時や自分の指導に生かしたりする。

※研究協議がない場合

- 参観していただいた教職員のところへできるだけ早く、自分からお礼と指導を受けに行く。

公開授業を見学するとき

- <授業前>
 - 学習指導案, 教科書に目を通す。
 - ・単元や本時の目標を確認。
 - ・研究主題との関連性や提案内容を確認。
- <授業中>
 - 教師の言動に対しての児童生徒の動きを観察(記録)する。
- <授業後>
 - 協議会があるときには、率先して質問・感想を言う。
 - 協議会がない場合は、お礼と学んだ点を自分から伝えに行く。

付録 「学習指導」チェックシート

継続して指導力向上に取り組んでいくためにも「学習指導チェックシート」を使い、PDCAサイクルで振り返り、必ず次に生かすことが大切です。客観的な振り返りのポイントを以下にまとめていますので、メンター、若手教員の双方でご活用ください。

※チェックシートの視点は「岡山市教員等育成指標」を基に作成しています。

- ・岡山市教育研究研修センターの研修で行う、若手教員自己マネジメントシート（10段階評定）も同様です。

① 若手教員は、チェックシートの項目に沿って自己評価する。

② 若手教員とメンターで、若手教員の自己評価を見ながら、全体を振り返る。

③ 重点的に取り組みたい項目を選び、目標達成に向けた取組方法を考える。メンターは若手教員が考えた取組に対して、アドバイスをします。

OJT取組シートの例です。EXCELファイル形式で校務支援システム（C4th）書庫に掲載しています。上記のチェックシートを通してできた次の目標を明確にするために、ご活用ください。

The image shows a screenshot of the 'OJT取組シート' (OJT Support Sheet) with two callout boxes. The first callout box, labeled '2 取組目標' (2. Support Objectives), points to the '2. 取組目標' (2. Support Objectives) section of the sheet. The second callout box, labeled '3 目標達成に向けた取組方法' (3. Support Methods for Goal Achievement), points to the '3. 目標達成に向けた取組方法' (3. Support Methods for Goal Achievement) section of the sheet. The sheet itself has fields for 'OJT対象者名' (OJT Target Name) and 'メンター名' (Mentor Name), followed by sections for '1. 現在の課題' (1. Current Issues), '2. 取組目標' (2. Support Objectives), '3. 目標達成に向けた取組方法' (3. Support Methods for Goal Achievement), and '4. 取組計画' (4. Support Plan) which includes a table with columns for '取組予定' (Support Plan), '体制' (System), '内容' (Content), and '備考' (Remarks).

主な参考文献

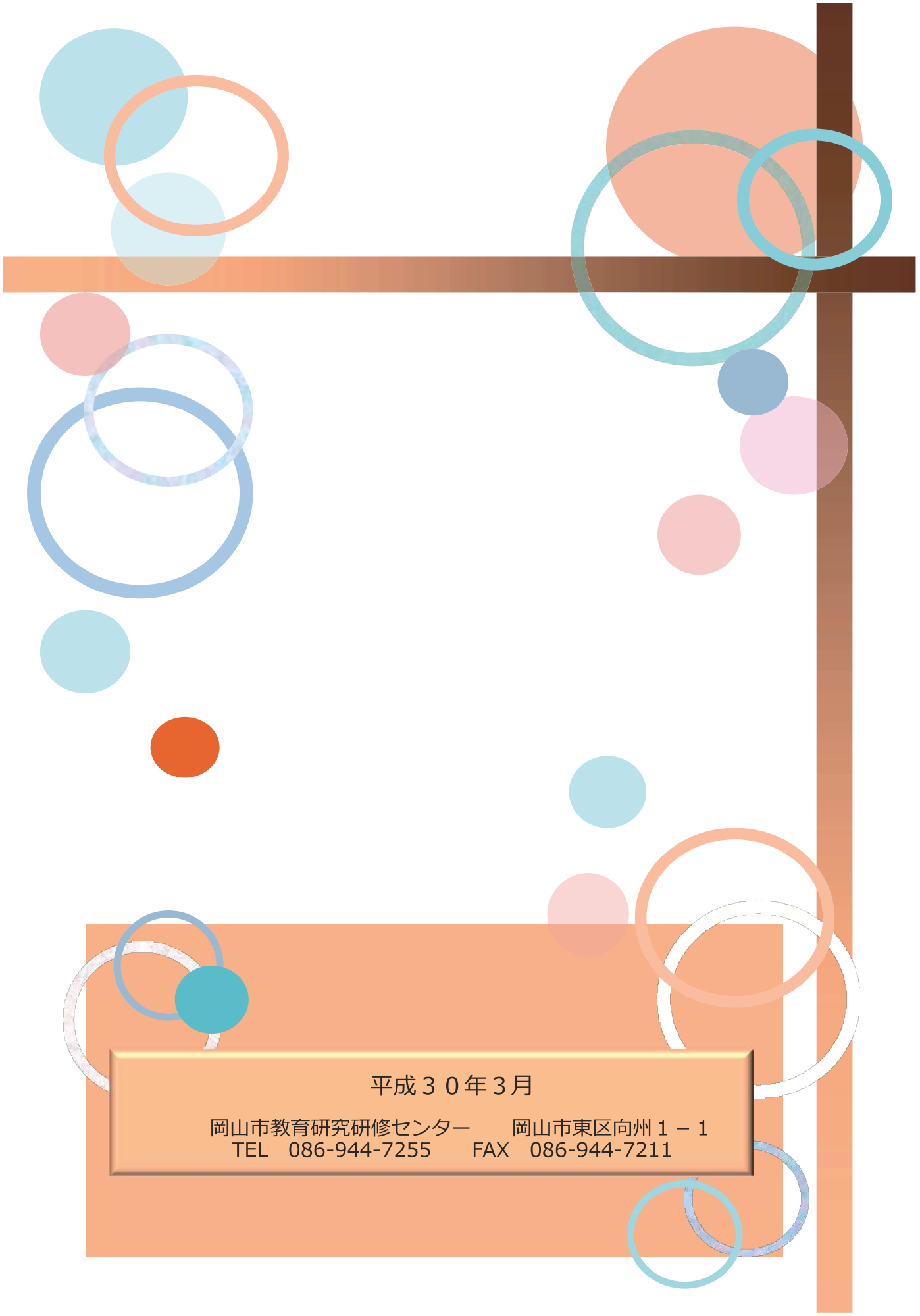
- 文部科学省 中央教育審議会 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」 平成27年12月
- 教育出版 教育研究所 「教師力アップへの挑戦」 平成27年6月
- 岡山市教育研究研修センター 「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」 平成29年3月
- 福岡県教育センター 「教師が身に付けておきたい技術」 平成24年
- 岡山県総合教育センター 「岡山型学習指導のスタンダード～3つの視点と7つのポイント」 平成26年6月
- 新潟市教育委員会 「授業作りガイドブック平成28年度版」 平成28年
- 北九州市教育委員会 「Teacher's Guide 教師のしおり」 平成28年3月
- 香川県教育委員会 「さめきの授業 基礎・基本」〔改訂版〕 平成29年3月
- 秋田県総合教育センター 「あきたのそごから-授業の基礎・基本- Ver. 2」 平成29年3月

	授業構想力（学習指導案を作成する力）	チェック
①	意欲的に教材研究や教材開発をしている。	
②	単元計画における本時の位置付けを明確にしている。	
③	「深い学び」の姿を想定した具体的な授業目標を設定している。	
④	「主体的な学び」のための見通しと振り返りの場を工夫している。	
⑤	目的に応じた「対話的な学び」の場の設定をしている。	
⑥	児童生徒の実態を踏まえた言語活動を工夫している。	

	授業展開力（学習指導案に沿って授業を進める力）	
①	学習意欲をもたせる働きかけをしている。	
②	学習活動のめあてや見通しのもたせ方を工夫している。	
③	学習規律が確立するように取り組んでいる。	
④	児童生徒の反応や思考を大切にした学習展開をしている。	
⑤	児童生徒一人一人への適切な支援をしている。	
⑥	児童生徒同士の対話的な学びがある授業になっている。	
⑦	教師の発問による児童生徒の思考の深まりがある授業になっている。	
⑧	教師の話し方や受け応えを工夫し、態度に気を付けている。	
⑨	適切な教材教具の提示方法や扱い方をしている。	
⑩	板書が分かりやすいように構成されている。	
⑪	本時の学習成果のまとめ方を工夫している。	
⑫	学習の振り返りで、児童生徒が充実感や満足感を感じられている。	
⑬	本時の指導のねらいが達成できている。	

	授業改善力（自己の授業評価力・指導技術の向上力）	
①	指導と評価の一体化を図るための手立てを工夫している。	
②	自己の授業分析を通して、課題を発見しようとしている。	
③	自己の専門性の向上や苦手分野の改善に取り組んでいる。	

※「岡山市教員等育成指標」の「教諭版」、C授業構想力、D授業展開力、E授業改善力に対応しています。



平成30年3月

岡山市教育研究研修センター 岡山市東区向州1-1
TEL 086-944-7255 FAX 086-944-7211